

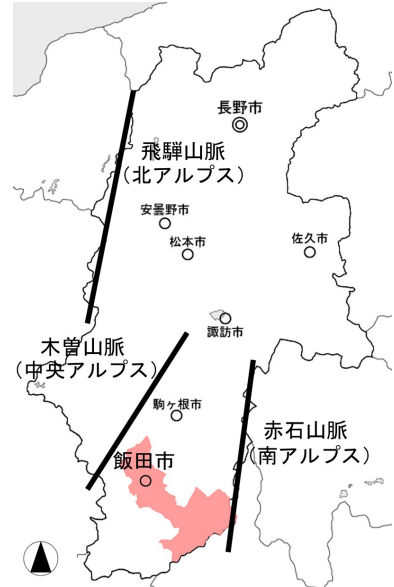
## 飯田市域の本棟造と養蚕建築の悉皆的調査研究

応募団体：飯田市 〒395-8501 長野県飯田市大久保町 2534 0265-22-4511  
 所属：飯田市歴史研究所 〒395-0002 長野県飯田市上郷飯沼 3145 0265-53-4670  
 研究期間：2006年度～2010年度（5年間）

### 1. 背景・目的

飯田市は長野県南部に位置し、木曾・赤石山脈の谷間地に開けた人口約10万人の市である。現段階で高速リニア鉄道主要駅建設の有力候補地になっており、今後都市開発が進むものと思われる。

飯田・下伊那地域には、民家建築に限れば、長野県中南信特有の「本棟造」と呼ばれる民家や、明治期以降に盛況した養蚕業の面影を残す養蚕向きの建築がほぼ手付かずの状態で見られる。これらの建造物およびその所有者が保管する古文書などの史資料の調査研究を通して、歴史的建造物の歴史的位置付けを行い、こうした建造物を育んだ社会的背景や文化を明らかにして、地域に根付いた格式高い建築様式を尊重し、今後の社会形成に生かす保存・活用の方法を模索することを目的とする。



### 2. 調査概要

まず飯田市域を対象地域として残存状況の悉皆調査を行い、次に家屋や生業に関して聞き取り調査、ならびに建物の間取りや構造に関して実測調査を行った。

本棟造に関しては209棟残存、198件の聞き取り調査、85棟の実測調査を行った。養蚕建築に関しては、残存数は本棟造の倍以上あるため市域全体の残存把握は今後の課題だが、一地区に範囲を絞り44件の聞き取り調査、40棟の実測調査を行った。

その他、本調査研究の対象から外れるが、同時に寺社建築や町家、商家等の調査も行う。

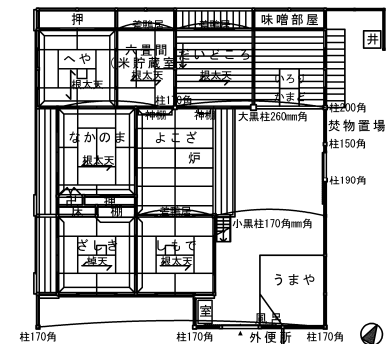
これらの調査成果をもとに、建築学的な特徴を考察し、時代による変遷や産業（養蚕業）の影響による変化、社会背景等を明らかにする。



### 3. 結論（近世から近代への民家の変容）

まず本棟造は切妻造妻入、もと石置板屋根の緩勾配屋根、2列3室の間取りを基本とする大型の民家である。17世紀末～19世紀末の建築でされ、当初は上層民家であったが、次第に大衆化し、19世紀中期に有力百姓により量産された。19世紀中期に本格的に各戸に養蚕業が導入され、本棟造も二階を拡大・増改築して蚕室としたが、飼育室確保と飼育環境限界があり明治中期に途絶えた。

代わって養蚕向きの総二階主屋が建てられるようになり、蚕室長屋が付属して増築された。特に飯田市域には飼育室を並べ、周囲に廊下を巡らす養蚕に特化した巨大な蚕室が約20棟確認できるが、これは北関東で考案された建築形式が養蚕専門校や蚕書等を通じて伝達されたものと思われる。



本棟造

#### 4. 今後の展望・問題意識

こうした民家は建築から100年以上経過するため、取り壊し件数が年々増加している。今後の展望として、伝統木構造の利・欠点や可能性を理解しながら修繕方法の提案を行い、将来的には文化財指定・登録や移築保存も含みながら、地域文化の遺産としての価値を再認識し、可能な限り住まいながら再生・活用する方法を見出したい。さらに調査研究によって得られた成果を通して、調査報告書の刊行や、市民、特に次世代を担う若者に対して講座やフィールドワーク、ワークショップを開催し、地元の需要に合わせた教育活動を行うことで、歴史的建造物に対する住民意識を高め、保存・利活用に努める。

#### 5. その他の活動

以上の成果を3月末に『飯田下伊那史料叢書2 建造物編1 本棟造と養蚕建築』と称する調査報告書として刊行予定である。

(A4判、約500ページ、3500円。解説と130件分の図版を収録。お問い合わせは歴史研究所まで)

飯田市歴史研究所は、地域の歴史に関する調査研究・教育・市誌編纂等の事業を行う市立の研究所として、2003年12月開設。地域史料を閲覧利用に供しているほか、書籍の発行、市民向けの講座やセミナーの開催なども行っており、市民が持続的に地域史と関われる場を提供することを目指している。

歴史研究所では建築史(来年度から古代史)・近世史・近現代史の研究員が常駐し、調査研究員・調査研究補助員・顧問研究員とともに地域の歴史研究活動を行っている。

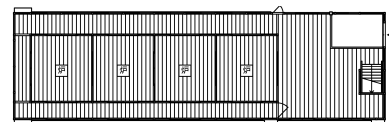
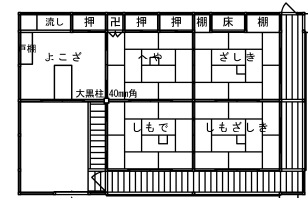
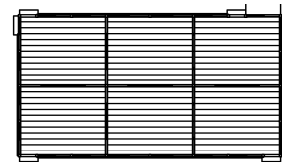
主な出版物：『年報1～8』、『みるよむまなぶ 飯田・下伊那の歴史』、『いとなむはたらく飯田のあゆみ』、『聞き書き—飯田町の暮らし—1～4』、『ジュニアライブラリー わたしたちの飯田線』、『同 水引のまち飯田』、『満州移民』、『下伊那のなかの満州』等

#### 6. おわりに

この度はこのような栄えある賞をいただき、誠にありがとうございました。飯田市域を事例として、今まで実態が十分明らかにされていなかった本棟造や、比較的新しい建築であるため研究対象とされていなかった近代の養蚕建築が、このような形で日の目を見ることができたのはうれしく思います。このような民家に住む方々を含め、正直なところ特異性や価値が十分に認識されていないのが現状です。この基礎研究を通じて、地域住民意識が少しでも高まることを期待しています。

ありがとうございました。

(金澤雄記 飯田市歴史研究所研究員(建築史))



養蚕建築



飯田市歴史研究所の出版物